

学年	1	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	林業入門						
概要	森林・林業の基礎知識、林業で使用する単位や計算方法等について学ぶ。						
背景・目的	森林の多様な機能・役割、森林管理や施業技術の基礎を学び、その後の講義や実習などがスムーズに理解できるようにする。また、林業就業に向けた基礎的能力・基本姿勢を養う。						
到達目標	森林・林業の基本的な内容について理解し、森林・林業の魅力ややり甲斐を見出す。						

担当職員	西 政敏・大塚 浩・石橋正樹・成相祐樹
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林、林業の基礎	・林業の使命、森林の多様な働き ・林業の歴史、現状 ・林業算術
2	講義	4	・林業の仕事、森林管理	・林業とは、森林計画・保安林制度概要 ・人工林管理技術概要、天然林管理 ・木材流通の基礎
3	講義	4	・森林作業の基本	・森林調査の概要、路網の役割 ・丸太の寸法測定、作業システム・林業機械の概要など
4	講義	4	・安全作業の基本 * 1	・山仕事の環境、危険生物、服装・動作の基本 ・熱中症対策、林業労働災害の概要
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「林業実践ブッカー基礎技術と安全衛生」(全国林業改良普及協会)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	1	単位数	1	時間数	20	対象	林業
科目	森林・林業概論						
概要	国、県の林業情勢を把握し、森林の持つ重要性及び林業関係施策を理解する。						
背景・目的	戦後造成された人工林の過半が本格的な利用期を迎え、森林資源が充実し、林業の成長産業化が望まれる中、林業を取り巻く様々な状況を理解する。						
到達目標	林業を取り巻く状況を理解する。						

担当職員	★林 真弘
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・日本と世界の森林、森林経営の意義と役割	・日本の森林資源、世界の森林資源、木材の需給 ・森林・林業の特質、私有林・公有林・国有林の経営
2	講義	4	・森林資源の循環利用としての林業・林産業	・循環資源としての木材、木造建築物と循環 ・林産業の現状と動向
3	講義	4	・森林・林業白書 概説①	・トピックス ・森林の整備・保全
4	講義	4	・森林・林業白書 概説②	・林業と山村 ・木材利用・木材産業
5	講義	4	・島根県の森林・林業・木材産業の現状と課題	・島根県の森林・林業・木材産業の動向 森林の整備・保全、林業・木材産業の振興 森林資源を活かした魅力ある中山間づくり 森林管理の働き手の確保と養成 など
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	林野庁「森林・林業白書」(農林統計協会)、島根県農林水産部「島根県の森林・林業・木材産業」、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	20	対象	林業
科目	森林・林業施策						
概要	我が国の森林・林業・山村施策、林業経済の概要を理解する						
背景・目的	我が国の森林・林業・山村施策の概要を理解し、森林整備・林業の担い手としての基礎知識を習得する。						
到達目標	森林・林業に係る行政施策の概要等を理解する。						

担当職員	★島根森林管理署・★伊藤勝久・★森林整備課各G
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・日本の森林・林業・山村政策	・森林、林業、山村政策及び経済の解説
2	講義	4	・林業経済学基礎	・林業の経済的な仕組みと近年の動向
3	講義	4	・森林計画制度（伐採届等を含む）、造林補助制度	・森林計画制度の概要、伐採届等の手続き ・森林整備事業と造林補助制度の概要
4	講義	4	・保安林・林地開発制度、治山・林道事業	・保安林制度、林地開発許可制度の概要 ・治山事業、林道事業の概要
5	講義	4	・国有林の政策（国有林の取り組み）	・県内の国有林の現況 ・重点取組事項
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	1	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	情報処理 I						
概要	コンピュータの基本的な操作、インターネット接続やワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基本的な操作を習得する。						
背景・目的	データ処理、プレゼンテーションを効率的・効果的に行うため、必要不可欠な技術である。						
到達目標	それぞれのソフトの操作を理解する。						

担当職員	★竹下由起子
進め方	各自がパソコンを操作して行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・コンピュータの基本的な操作、セキュリティ講習	・マウスとキーボードの操作 ・ファイルとフォルダ ・セキュリティ対策
2	講義	8	・ワードプロセッサの基礎演習	・Wordの基本操作 ・Wordにより文書作成
3	講義	12	・表計算ソフトの基礎演習	・Excelの基本操作 ・Excelによる表の作成（計算）、グラフの作成
4	講義	8	・プレゼンテーションソフトの基礎演習	・PowerPointの基本操作 ・発表用資料の作成
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「情報リテラシーOffice実践」(富士通オフィス機器株式会社)					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			10	10	80	課題提出
摘 要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	情報処理Ⅱ						
概要	コンピュータを活用し、課題研究作成に役立てたり、林業分野で活用するための応用力を身につける。						
背景・目的	データ処理、プレゼンテーションを効率的・効果的に行うため、必要不可欠な技術である。						
到達目標	それぞれのソフトの操作を理解する。						

担当職員	★竹下由起子
進め方	各自がパソコンを操作して行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	12	・ワードプロセッサの基礎演習	・ワードでの文書作成
2	講義	12	・表計算ソフトの基礎演習	・Excelによる表の作成（計算）、グラフの作成
3	講義	8	・プレゼンテーションソフトの基礎演習	・PowerPointの応用操作 ・発表用資料の作成と発表
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「情報リテラシーOffice実践」(富士通オフィス機器株式会社)					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			10	10	80	課題提出
摘要						

学年	1	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	森林経営						
概要	森林経営に必要な知識と技術を習得し、森林の機能と評価の意義を理解する。						
背景・目的	<p>県内の森林は伐期に達する林分が増加している一方で、長期の木材価格の低迷から、林業の収益性は低く、林業経営意欲が極端に低下しており、手入れ不足の荒廃林も増加し、境界不明森林も多い。</p> <p>このような状況の中、国土の保全や地球環境の保全など森林の多面的機能の発揮とともに、適期に適切な伐採、造林などを実施することにより、森林の持続可能な経営を目指す。</p>						
到達目標	林業経営の現状を理解するとともに、森林経営・森林評価手法の概要を理解する。						

担当職員	嘉儀圭一
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林経営の目標と組織、計画	・森林経営の特徴と目標 ・森林経営の管理組織 ・森林経営に関する計画
2	講義	4	・森林の評価	・森林評価の種類 ・林地、林木評価
3	講義	4	・森林施業の基礎 ・持続可能な森林経営、森林認証制度	・森林の種類、森林施業の進め方 ・法正林、森林認証制度の意義と経緯
4	講義	4	・人工林経営タイプ ・林産物等の生産販売 ・新たな森林利用	・皆伐から複層林経営へ ・多角経営 ・森林空間の総合利用

テキスト (教材)	実務出版株式会社発行「森林経営」、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	林業経理						
概要	森林組合や事業体等で経営・採算性等の実情を計数的にとらえる手法を学ぶ。						
背景・目的	企業会計の基礎となっている簿記の基礎を学ぶ。						
到達目標	簿記の基礎を理解する。						

担当職員	★佐藤博子
進め方	講義主体に行い、各時間ごとに演習問題を解き、理解度を確認する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・簿記の基礎	
2	講義	4	・貸借対照表と損益計算書	・簿記の要素・純損益の計算等
3	講義	4	・取引と勘定	・分解と勘定記入等
4	講義	4	・仕分けと転記	・仕訳帳・総勘定元帳等
5	講義	4	・取引の記帳	
6	講義	4	・試算表と精算表	・種類と作成方法
7	講義	4	・決算	・決算の意味、手続き、報告
8	講義	4	・財務諸表の作成	・総合演習
9				
10				

テキスト (教材)	「新簿記」(実教出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			10	10	80	小テスト
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	経営実践						
概要	林業を生業としている森林組合や民間事業者の経営者等から、現状や課題、対応策を学ぶ。						
背景・目的	県内の事業者を知るとともに、それぞれの業種の経営に対する考え方を知る。						
到達目標	県内の事業者を知り、現状を理解する。						

担当職員	★県内林業事業者
進め方	必要に応じて事業者に足を運び、講義主体で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林組合の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
2	講義	4	・育林事業者の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
3	講義	4	・素材生産事業者の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
4	講義	4	・製材所の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	24	対象	林業
科目	森林経営計画						
概要	森林経営計画の概要を学び、現地の情報収集を行い計画を作成する手法について理解する。						
背景・目的	採算性を高め、持続的な森林経営を維持していくための手段である森林経営計画について理解する。						
到達目標	森林経営計画の概要と作成手法を理解する。						

担当職員	森林整備課 森林計画G
進め方	講義主体に行い、森林経営計画を作成、発表する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林経営計画の概要	・森林経営計画制度の概要と認定基準、優遇措置
2	実習	8	・森林情報収集 *6	・森林計画図、空中写真、森林GIS等による情報収集 ・地形、地質情報の収集
3	実習	8	・森林経営計画の作成	・間伐率の設定、搬出計画の作成 ・森林簿情報から計画素案を作成（パソコン使用）
4	講義	4	・作成した森林経営計画の発表	・作成した森林経営計画案の発表 ・森林経営計画案についての意見交換
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60		10	10	20	小テスト
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	24	対象	林業
科目	提案型集約化施業						
概要	森林を集約化し、目標林型や施業方法を決定して収支計算を行い、提案書を作成する。						
背景・目的	利用間伐に限らず、主伐や伐採後の更新作業を含め、森林の集約化が必要である。						
到達目標	森林施業提案書を作成する。						

担当職員	★藤本信也・★日野原淳・嘉儀圭一
進め方	講義により提案型集約化施業を理解した後、実際の現場とその提案書にふれる。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・提案型集約化施業の意義と進め方、作業システム	・提案型集約施業の意義 ・森林施業プランナーの役割 ・森林施業提案書の作成
2	講義	4	・工程管理及び原価管理、提案書作成	・工程管理の必要性 ・原価計算の方法 ・提案書の作成
3	実習	8	・提案書現地視察、検証	
4	実習	8	・提案書現地視察、検証	
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林施業プランナーテキスト」(森林施業プランナー協会)、関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	40		10	10	40	提案書
摘 要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	事業体経営						
概要	中小企業経営及び社会人になるうえで必要な項目等について学ぶ。						
背景・目的	経営に関する意識を高めるとともに、社会人としての基礎力を向上させる。						
到達目標	経営意識を高めるとともに、社会人として必要な力を身につける。						

担当職員	★足立修司
進め方	講義、演習（ケーススタディ）及びグループワークを中心に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・経営学とは	
2	講義	4	・ビジネスモデル	・ビジネスモデルキャンパスとは ・ビジネスモデルキャンパスの作成手順
3	講義	4	・マーケティングの考え方	・マーケティングの考え方 ・マーケティングの活動の流れと具体的な行動 ・ターゲット市場、顧客の選定 ・マーケティングミックスの策定 ・SWOT分析
4	講義	4	・ファイナンス	・会計の基本、損益計算書と貸借対照表 ・損益分岐点の理解、資金繰りの理解 ・財務分析
5	演習	4	・ビスストーム	・ビジネスゲームで学ぶ経営の全体像
6	講義	4	・業務フロー、業務改善	・改善発想方法 ECRS
7	講義	4	・生産性の向上	・組織における人の重要性 ・組織におけるコミュニケーションの重要性 ・コミュニケーションの実践のために ・チームワークとは
8	講義	4	・総括	・企業の種類、個人・法人の特徴 ・許認可手続き、届出 ・クラウドファンディングとは ・消費税 ・プレゼンテーション

テキスト (教材)	「プレステップ経済学」(弘文堂)					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	事業体管理						
概要	基本となる「人間関係」について、実際の試験を交えて考察する。						
背景・目的	事業体を健全に運営するためには、組織の活性化が重要である。						
到達目標	より良い人間関係の作り方について、自分の考えを持つ。						

担当職員	★園田英之・★園田千恵
進め方	図書を精読するとともに、演習等により考え方をシェアし合うことを基本に進める。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・組織における労働とは	
2	講義	4	・人を動かす	
3	講義	4	・コミュニケーションスキル	
4	講義	4	・会社の存在意義	
5	講義	4	・インターンシップの振り返り ・リーダーとは	
6	講義	4	・雇用と委託、労働条件	
7	講義	4	・労働問題、人間関係、会社とのトラブル対処	
8	講義	4	・働き方改革を実現するために	
9				
10				

テキスト (教材)	「人を動かす」(D・カーネギー、創元社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	1	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	樹木						
概要	樹木の生態や分類を理解し、その特徴や利用方法について学ぶ。						
背景・目的	森林を適切に保全し、整備・管理するためには、森林を構成する樹木の識別、特徴を理解することが必要である。県内に分布する主要な樹種について、その生態や特徴を理解する。						
到達目標	植物(樹木)の生理・生態について理解している。 主要な造林樹種をはじめ、県内に分布する主要な針葉樹・広葉樹を識別(同定：50種以上)できる。						

担当職員	★大場寛文
進め方	講義及び森林等における樹木観察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・植物の特徴と分類	・植物の形態的特徴、分類の要点
2	実習	4	・樹木の特徴と分類	・樹木の分類、見分け方(葉、樹皮、樹形、芽等) ・主要な樹種とその特徴
3	実習	8	・樹木観察①	・冷温帯の樹木 (大万木山)
4	実習	8	・樹木観察②	・暖温帯の樹木 (ふるさと森林公園)
5	実習	8	・樹木観察③	・暖温帯の樹木 (八重滝)
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「葉っぱで見分け五感で楽しむ 樹木図鑑」(林将之、ナツメ社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60		10	10	20	小テスト
摘要						

学年	1	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	測樹						
概要	森林の現況把握に必要な森林調査・測樹の基礎知識、立木の調査方法を学ぶ。						
背景・目的	森林経営・森林管理に必要な基礎情報を把握するための森林調査技術を習得する。						
到達目標	森林調査に必要な各種計測方法を習得し、毎木調査や標準地調査等によるデータ分析方法を理解する。						

担当職員	西 政敏
進め方	講義及び森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・測樹の目的、概要 ・胸高直径、樹高及び単木材積	・測樹の意義、測樹で使用される単位 ・胸高直径、樹高及び単木材積の求め方
2	実習	4	・胸高直径、樹高及び丸太の測定	・胸高直径の測定 ・樹高の測定 ・丸太の測定
3	実習	16	・林分調査	・毎木調査、標準地調査 ・調査のまとめ
4	実習	8	・樹幹解析	・調査木の選定、円盤の採取、年輪の調査 ・解析図の作成、材積計算、生長量表の作成
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林経営」(実務出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	60	20	10	10		
摘 要						

学年	1	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	測量						
概要	測量の目的、基礎知識及び林業経営に必要な測量技術(多角測量・水準測量)を講義と演習により習得する。						
背景・目的	就業後において、効率的かつ正確な測量ができるように使用機械の基本操作を理解し、調査結果をまとめるために必要な知識、技術・技能を習得する。						
到達目標	ポケットコンパス・デジタルコンパス、オートレベル、GPS等による測量を適切に行うことができる。						

担当職員	★岩村正信・西 政敏
進め方	講義及び森林等における実習により行う

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・測量の歴史、基礎知識	・測量の種類 ・地形図の見方 ・単位換算 ・誤差
2	実習	4	・周囲測量	・ポケットコンパス測量
3	実習	4	・測量成果の図化	・手書きによる図化 ・PCによる測量データの図化
4	実習	4	・水準測量	・水準測量の理論 ・オートレベルによる水準測量 ・水準測量の野帳整理と図化
5	講義	4	・レーザー(デジタル)コンパス・GPS測量システムの基礎知識 * 6	・デジタルコンパスの構造と種類 ・GPS (GNSS) の構造と種類
6	実習	4	・レーザー(デジタル)コンパス・GPS測量システムの基本操作 * 6	・デジタルコンパスの操作 ・GPSの操作
7	講義	4	・測量成果の管理	・PCによる電子測量成果の管理
8	実習	4	・路線測量	・路線の曲線分類 ・カーブセット
9				
10				

テキスト(教材)	「実験実習の手引き」(全国林業改良普及協会)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	1年	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	森林情報						
概要	情報通信技術や様々な森林情報の活用技術を学ぶ。						
背景・目的	労働生産性の向上や安全性の向上に向け、地理空間情報やICT等の先端技術を森林管理や林業に活用する取組が進められており、今後飛躍する分野として活用できる人材が求められている。						
到達目標	GIS技術の概要を理解し、基本的なデータ加工・分析・活用することができる。 リモートセンシング技術の仕組みについて理解している。						

担当職員	★中村 尚・★岩村正信・西 政敏
進め方	講義、演習及び森林等での実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	森林情報活用	・森林における情報通信技術の活用 ・オープンデータの活用（標高データ外） ・インターネット地図の活用
2	講義	4	GISの基礎知識 * 6	・GISの構造 ・GISの機能 ・GISの種類
3	講義	8	QGISの概要と基本操作 * 6	・QGISの特徴 ・QGISの操作方法
4	実習	8	レイヤ操作、主題図の作成 * 6	・データの作成、属性による塗り分け
5	実習	4	QGISの応用 * 6	・各種データの重ね合わせ
6	講義	4	森林リモートセンシング技術の活用 * 6	・衛星画像解析技術の基礎 ・航空レーザー計測など最新計測技術
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60	20	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	スマート林業						
概要	ICTや最新の機器を活用した森林情報の高度化、木材生産・流通段階に於ける効率化や情報共有化に資する技術を学ぶ						
背景・目的	森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産を可能にするため、地理空間情報やICT、ロボット等の先端技術を活用した「スマート林業」の実現に向けた取組が必要とされている。ICT等の利用した先端技術のと森林管理や木材生産等への活用方法を学ぶ						
到達目標	林業・木材産業の各段階におけるICT等の先端技術を活用した取組の概要を理解する。 森林3次元計測システムの使用方法、UAVの安全な操作・データ活用方法を理解する。						

担当職員	★岩村正信・★千原敬也
進め方	講義及び森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・GNSS・GIS等を活用したスマート林業の推進*6	・スマート林業の取り組み状況 森林資源情報の高度化・共有化、生産性の向上・効率化、需給情報の共有
2	実習	8	・森林3次元計測システムの活用*6	・機器の特徴、機器の取扱い方、計測演習
3	実習	8	・森林3次元計測システムを用いた森林調査*6	・森林内での計測 ・計測データの分析
4	講義	8	・ドローンの活用、空撮*6	・基礎知識、法令、林業での活用法 ・基本操作、カメラ設定
5	実習	8	・空撮写真での三次元解析*6	・自動航行撮影、三次元化とオルソ画像作成
6				
7				
8				
9				

テキスト (教材)	関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	1	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	木材利用 I						
概要	木材の構造、物理的特性（比重・含水率）、機械的特性（弾性・強度）等木材の性質の基本的事項を理解し、製材機械の概要、基本的な製材方法と木材加工について学ぶ。						
背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> 山から切り出される原木の科学的・物理的特性を知る。 原木がどのような過程（加工方法）を経て、最終消費者へ渡っていくのかについて理解する。 						
到達目標	木材の特性、木材加工（製材）の基礎知識を習得する。						

担当職員	★村上裕作、石橋正樹
進め方	講義・実習及び製材工場等の視察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木材利用の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 木材の構造と材質 木材の特性（組織、科学、物理）
2	実習	4	木材の乾燥と強度	<ul style="list-style-type: none"> 含水率計測、寸法安定性評価 強度試験（曲げ試験、ヤング係数測定）
3	実習	4	木材の加工 * 4	<ul style="list-style-type: none"> 製材所視察
4	実習	4	くらしの中の木材利用 * 4	<ul style="list-style-type: none"> 公共建築物建設現場見学
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	30	30	20	20	0	
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	木材利用Ⅱ						
概要	木質材料（合板、LVL、集成材、パーティクルボード等）の種類や用途、製造方法について学ぶとともに、防蟻、防腐、防火、接着等の木材加工について学習する。						
背景・目的	製材以外にも合板やバイオマス発電等、木材大量に供給する需要者があることについて理解する。また規格や品質について理解し、地域の需要に応じた仕分けができるようにする。						
到達目標	カスケード利用など木材循環について理解する。 木質材料・木質チップ等の利活用の現状及び加工方法について理解する。						

担当職員	★後藤崇志、石橋正樹
進め方	講義・実習及び製材工場等の視察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木質材料としての利活用	・合板・集成材・CLT・LVL等の特徴と用途 ・合板・集成材・CLT、LVL等の製造方法、技術
2	講義	4	木質バイオマスとしての利活用	・熱エネルギー利用、電力利用 ・木質チップ・おが粉等の利活用
3	実習	4	木材の加工 *4	・合板、木質バイオマス発電等の工場見学 ・原木の需要先が求める規格について
4	実習	4	くらしの中の木材利用 *4	・民間戸建住宅の建設現場見学
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	30	30	20	20	0	
摘要						

学年	1	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	森林資源活用						
概要	きのこ、特用樹などの利活用及びその栽培技術を習得する。						
背景・目的	木材生産のみでなく、森林を活用して収入を得ることが重要である。						
到達目標	特用林産物の栽培技術の概要を理解する。						

担当職員	富川康之
進め方	講義及び実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・きのこ生産の概要	・きのこ生産量（原木栽培、菌床栽培） ・シイタケ原木栽培の基礎（原木伐採～植菌）
2	講義 実習	4	・特用林産物の概要	・特用林産物の種類 ・特用樹の挿し木実習
3	講義	8	・きのこ菌床栽培技術	・栽培工程 ・病害虫防除技術
4	講義	4	・特用樹栽培技術	・種類と用途 ・栽培技術
5	講義	4	・きのこ学	・きのこの生理、生態、分類 ・毒きのこの注意点
6	実習	8	・特用林産実習	・野生きのこ採取、鑑定 ・特用樹の観察
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			10	10	80	小テスト
摘要						

学年	1	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	木材流通・販売						
概要	素材、製材品等の流通及び販売について理解するとともに、需要拡大について考える機会とする。						
背景・目的	県産材及び県内で搬出された原木の種類、規格及び品質、価格等について学ぶとともに、木材がどのような仕組みで流通し、どのように販売されているか、その実態について学ぶ。						
到達目標	県内産の素材及び製材品の流通実態を把握する。						

担当職員	★伊達雅宏、成相祐樹
進め方	講義・視察（木材市場・製品市場等）及び演習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木材需給状況の現状	・県内原木の特徴と価値 ・素材の流通・加工・利用
2	実習	4	木材販売	・木材（原木）市場見学 ・原木の仕分け
3	講義	4	県内の木材流通・販売実態	・樹種、品質の見方 ・丸太採材の仕方
4	実習	4	木材販売	・木材（製品）市場見学
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	30	30	20	20		
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	木造建築						
概要	木造建築の歴史と技術、工法や性能など基礎知識を学び、実際の建築現場において木造建築の事例について学ぶ。						
背景・目的	伐採・搬出された原木が、どのように加工され、木造建築で活用されているかを理解する。 木造建築物の使用部材を知ること、保育施業の意義を再確認する。						
到達目標	木造住宅への木材の使われ方について理解する。						

担当職員	★中村正志、石橋正樹
進め方	講義及び現地視察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木造住宅の基礎材料	・部材の名称 ・構造・造作・下地に使用する樹種
2	講義	4	木造住宅の構造と特性	・工法（在来軸組・2×4・パネル等） ・木質環境と安全性（耐熱、耐震、調湿等）
3	実習	4	住宅建築	・様々な民間戸建て木造建築現場を見学し、現代における地域材利用のあり方を考える
4	実習	4	住宅環境	・古民家を改修した住宅展示場等を見学し、伝統的な木造建築技術について学ぶ
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	30	30	20	20	0	
摘要						

学年	1	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	林業機械・労働安全						
概要	林業機械を安全かつ効率的に利用するため、必要な知識や操作方法について学ぶとともに、事業者等が実施している労働災害防止の取り組みを理解する。						
背景・目的	林業機械の基礎を学ぶとともに、林業の労働災害の状況を理解して、安全意識の高揚に努める。						
到達目標	手工具、小型林業機械の取扱いや整備を理解するとともに、労働災害防止の取り組みを理解し、安全意識を高める。						

担当職員	大塚 浩
進め方	講義及び森林内で実習（KY活動を含む）を行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・機械化の歴史、必要性、種類	
2	実習	4	・手工具の取扱い ・エンジンの構造	・鉋、鎌等の刃物の取扱い、刃物研ぎ
3	講義	16	・機械メンテナンス（基礎）	・チェーンソー、刈払機のメンテナンス、目立て
4	講義	4	・林業労働災害の現状、分析 * 1 ・林業労働災害の防止対策	・前年度労働災害の傾向と分析 ・労働災害事例から考える防止対策
5	講義	4	・危険予知トレーニング、ヒヤリハット ・林材業におけるリスクアセスメント ・作業計画の作成 * 1	・グループでのKY、リスクアセスメント討議 ・専攻実習で行う実習現場の作業計画を作成
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「チェーンソー作業の安全ナビ」（林業・木材製造業労働災害防止協会）、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	40	対象	林業
科目	林業機械Ⅱ						
概要	コストを意識し、それぞれの現場に即した作業システムによる木材生産を学ぶ。						
背景・目的	安全を最優先にしたうえで、生産性及び生産コストの意識を高める。						
到達目標	コスト意識を高める。						

担当職員	★千原敬也、大塚 浩
進め方	講義及び森林内における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	8	・労働生産性と生産コスト	・生産性、労働生産性、生産コストの基礎知識
2	講義	8	・コスト計算と工程管理	・簡易コスト分析シートの使用方法 ・簡易コスト分析シートを用いた試算
3	講義	8	・高性能林業機械作業システム * 8	・作業システムの基礎知識 ・作業事例
4	実習	16	・林業機械のメンテナンス（応用）* 7	・ハーベスタ、スイングヤーダ、フォワーダのメンテナンス
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林施業プランナーテキスト 改訂版」(森林施業プランナー協会)、生産性向上ガイドブック(林野庁)、架線集材の低コスト化を目指して(中山間C)、簡易コスト分析シート(中山間C)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	1	単位数	1	時間数	24	対象	林業
科目	伐木技術						
概要	安全な伐木のための作業方法及び機械整備等について理解する。						
背景・目的	林業現場で重大事故が多く発生しているチェーンソーについて、安全作業を重点的に学ぶ。						
到達目標	チェーンソーを安全に使用するためのポイントを理解する。						

担当職員	石橋正樹
進め方	講義及び機械訓練場・森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・安全装備のチェック ・チェーンソー操作の基本 *10	・安全なチェーンソー作業のための装備、操作方法
2	実習	4	・基本操作実習（伐倒練習機）*10	・チェーンソー操作の基本姿勢と水平切り
3	実習	8	・基本操作実習（伐倒練習機）*10	・受け口、追い口の作り方
4	実習	8	・基本操作実習	・実習林での伐倒、かかり木処理
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			10	10	80	実技
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	採材技術						
概要	木材を高値で販売するために、必要な木取り、欠点などを学ぶ。						
背景・目的	木材の価格は、採材・木取りによって増減する。						
到達目標	高値販売のためのポイントを理解する。						

担当職員	★山形弘司
進め方	講義及び森林内、製材所における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・丸太の見分け方	・木材の欠点と要因
2	講義	4	・製材用丸太の木取り、軸組工法	・用途別の木取りと歩留り ・在来工法(軸組工法)の各部名称
3	講義	4	・仕分け、選別と高価販売のポイント	・市場での仕分け方法、選別方法
4	実習	4	・現場での採材	・現地で採材を行い評価
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	森林路網						
概要	森林作業道の路線計画及び設計に必要な知識を習得する。						
背景・目的	低コスト木材生産のためには、路網整備が重要である。						
到達目標	測量の手法、各種図面の作成方法を理解する。						

担当職員	★榎本賢朗
進め方	現地確認、現地測量後、各種図面を作成し、土量計算をする。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	8	・ルート選定	・ハンドレベルにより勾配確認、林分確認の現地踏査
2	実習	8	・平面、縦断、横断測量	・踏査結果に基づくポケットコンパス、レベルを用いた現地測量
3	講義	8	・平面図、縦断図、横断図の作成	・現地測量結果に基づく図化作業
4	講義	8	・設計、土量計算	・測量成果に基づく設計および数量計算
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	1	単位数	6	時間数	194	対象	林業
科目	資格内部（内部）						
概要	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする。						
背景・目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する。						
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する。						

担当職員	★住田義則・★樋野和夫・★伊藤 進・★角田健二・★藤原芳樹・大塚 浩
進め方	講義及び実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	学科	54	・林業架線作業主任者免許講習	・機械集材装置及び運材索道に関する知識 ・林業架線作業に関する知識 ・林業架線作業に必要な力学に関する知識
	実習	50		・主索の安全係数の点検 ・鋼索の止め方及び継ぎ方 ・点検 ・重量目測 ・荷かけ及び荷はずし
2	学科	9	・車両系建設機械運転技能講習	・車両系建設機械の走行に関する装置の構造 ・取扱い及び作業方法に関する知識
	実習	5		・車両系建設機械の走行の操作 ・車両系建設機械の作業のための装置の操作
3	学科	6	・機械集材装置運転特別教育	・機械集材装置に関する知識 ・ワイヤーロープに関する知識
	実習	8		・集材機の操作 ・ワイヤーロープの止め方、継ぎ方及び点検方法
4	学科	6	・伐木等機械の運転の業務に係る特別教育	・伐木等機械に関する知識 ・伐木等機械に関する操作方法
	実習	6		・伐木等機械の走行の操作 ・伐木等機械の作業のための装置の操作方法
5	学科	6	・走行集材機械の運転の業務に係る特別教育	・走行集材機械に関する知識 ・走行集材機械に関する操作方法
	実習	6		・走行集材機械の走行の操作 ・走行集材機械の作業のための装置の操作
6	学科	6	・簡易架線集材装置の運転又は架線集材機械の運転の業務に係る特別教育	・簡易架線集材装置の集材機及び架線集材機械に関する知識 ・簡易架線集材装置の集材機及び架線集材機械に関する操作方法
	実習	8		・架線集材機械の走行の操作 ・簡易架線集材装置の集材機及び架線集材機械の作業のための装置の操作
7	学科	9	伐木等業務特別教育	・伐木等作業に関する知識 ・振動障害及びその予防に関する知識 ・チェーンソーに関する知識
	実習	9		・伐木の方法 ・チェーンソーの操作 ・チェーンソーの点検及び整備
8	学科	5	刈払機取扱者安全衛生教育	・刈払機作業に関する知識 ・刈払機の点検及び整備に関する知識 ・振動障害及びその予防に関する知識
	実習	1		・刈払機の取扱い ・作業の方法 ・刈払機の点検、整備の方法等

テキスト (教材)	「林業架線作業主任者テキスト」（林材業労災防止協会発行）、「車両系建設機械運転者教本[整地・運搬・積込み用及び掘削用]」（建設業労働災害防止協会発行）、「車両系林業機械安全マニュアル」（林材業労災防止協会発行）、「チェーンソー作業の安全ナビ」（林材業労災防止協会発行）、「安全な刈払機作業のポイント」（林材業労災防止協会発行）					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	1	単位数	1	時間数	60	対象	林業
科目	資格取得（外部1）						
概要	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする。						
背景・目的	機械を安全に使用するための知識、技術を習得する。						
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する。						

担当職員	西 政敏
進め方	各種資格の主催団体（外部委託）で実施する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実技	5	大型特殊自動車運転免許	・自動車学校での実技講習
2	学科	13	小型移動式クレーン運転技能講習	・小型移動式クレーンに関する知識 ・小型移動式クレーンの運転に必要な力学 ・原動機及び電気に関する知識
	実技	8		・実技会場での実技講習
3	学科	9	玉掛け技能講習	・玉掛けに必要な力学 ・玉掛けの方法
	実技	6		・実技会場での実技講習
4	実技	5	救急法基礎講習 * 1	・赤十字救急法について ・手当の基本 ・一次救命処置 ・気道内異物除去
5	実技	14	日赤救急法救急員 * 1	・赤十字救急法救急員について ・急病 ・けが ・止血 ・きずの手当 ・骨折の手当 ・搬送・救護
6				
7				
8				

テキスト (教材)	外部委託の団体が指定する教材を購入					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			50		50	資格取得
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	資格取得（外部2）						
概要	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする。						
背景・目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する。						
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する。						

担当職員	★大国隆二・西 政敏
進め方	各種資格の主催団体（外部委託）で実施する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	学科	7	フォークリフト運転技能講習	・フォークリフトに関する知識 ・フォークリフトの操作方法
	実技	4		・実技会場での実技講習
2	学科	5	狩猟免許（わな）	・鳥獣保護法の概要 ・鳥獣の保護及び管理に関する知識 ・猟具の取り扱いに関する知識 ・鳥獣に関する知識
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				

テキスト （教材）	外部委託の団体が指定する教材を購入					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			50		50	資格取得
摘 要						

学年	1	単位数	3	時間数	48	対象	林業
科目	育林技術 I						
概要	育林の目的や目的に応じた施業方法について、基本的な知識と技術を習得する。						
背景・目的	林業に必要な森林の基礎を学び、科学的根拠に裏付けされた正しい作業方法について理解したうえで身につけることを目的とする。						
到達目標	育林の基礎知識や単層林の造林方法について理解する。						

担当職員	石橋正樹
進め方	講義及び森林内における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・ 林木の特性	・ 樹木とは ・ 樹木の識別 ・ 日本の主要な樹木
2	講義	4	・ 林木の生育と環境	・ 林木の成長 ・ 林木の生育に関わる環境因子 ・ 植物による環境指標
3	講義	8	・ 森林の育成① * 5	・ 育苗、造林
4	実習	8	・ 森林の育成② * 5	・ 地ごしらえ、植付け
5	講義	4	・ 森林の保育①	・ 下刈り～保育間伐
6	実習	8	・ 森林の保育②	・ 下刈り（雪起こし含む）
7	実習	12	・ 森林の保育③	・ 除伐 ・ 枝打ち ・ 保育間伐
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林科学」(実教出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80	0	10	10	0	
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	育林技術Ⅱ						
概要	林業生産における目標林型の設定と間伐技術について理解する。						
背景・目的	間伐の指針、選木から伐倒までの技術、作業システム、施業体系における間伐の整理を通して、目標とする森林の姿のイメージ化、長期的な森づくりのプランニングについて理解する。						
到達目標	将来の目標林型と間伐効果について理解を深める。						

担当職員	大塚 浩
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・間伐の基礎知識と応用、作業技術	・間伐の基礎知識 ・間伐の進め方 ・間伐の作業技術
2	講義	4	・目標林型とその理論	・林種 ・森林の発達段階 ・目標林型の求め方
3	講義	4	・コンテナ苗、低密度植栽及び一貫作業*5 ・人工林収穫予想表の見方と活用	
4	講義	4	・長伐期施業、複層林施業及び広葉樹林施業	・長伐期施業の概要 ・複層林施業の概要 ・広葉樹林施業の概要
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「高性能林業機械による利用間伐の手引き」(島根県林業改良普及協会)、「島根県人工林収穫予想表(平成23年4月発行)」(島根県)、「間伐と目標林型を考える」(全国林業改良普及協会)					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	1	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	育苗技術						
概要	普通苗、コンテナ苗の育苗技術を習得するため、苗畑における一連の作業を体験する。						
背景・目的	造林用苗木の生産者が減少しているなか、確実な再造林を実施するために必要な優良苗木を安定して生産する技術を理解する。						
到達目標	普通苗の育苗技術を習得するとともに、コンテナ苗生産の概要を理解する。						

担当職員	★豆谷龍治、成相祐樹
進め方	講義、実習による苗木育成をとおして、育苗技術を理解する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・育苗技術の概要	・生産目標の設定と優良苗木の条件、林業種苗法 ・林木の育種 ・育苗方法、農薬の使用方法
2	実習	8	・幼苗生産（播種）	・苗畑づくり ・播種
3	実習	4	・床替苗生産（2年生）	・生産目標の設定、苗木の選別 ・床替え、床替え後の管理
4	実習	4	・堀取り・選苗・仮植	・苗木の規格、選苗 ・堀取り、仮植 ・梱包、輸送
5	実習	4	・挿し木苗	・挿し付け ・挿し付け後の管理
6	講義	4	・コンテナ苗の概要 * 5	・コンテナ苗の特徴 ・育苗方式
7	実習	4	・コンテナ苗の生産（培土、播種）* 5	・培土づくり、播種
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「山行苗生産技術マニュアル」(島根県林業種苗協同組合)、「スギ・ヒノキのコンテナ苗生産の手引き」(島根県中山間地域研究センター)、「講習会テキスト 林業種苗の生産・配布に必要な知識」(全国山林種苗協同組合連合会)、「森林科学」(実教出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	森林保護						
概要	森林における病虫獣害について、その防除方法、対処方法について学ぶとともに、庭園木管理について学ぶ。						
背景・目的	健全な森林造成のため、病虫獣害による森林被害について理解する。						
到達目標	代表的な病虫獣害による森林被害の特徴及びその防除法を理解する。						

担当職員	★陶山大志・★田中友梨・★安達直之・★小沼仁美
進め方	講義及び実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林病害虫の概要 ・林木の虫害の診断と防除 ・農業の取扱い	・被害とは、病虫獣害名の判定、防除方法 ・スギカミキリ、スギザイノタマバエなど ・
2	講義	4	・林木の病害の診断と防除	・マツ材線虫病（松くい虫） ・ブナ科樹木萎凋病（ナラ枯れ）
3	実習	8	・松くい虫（及びナラ枯れ）被害木駆除	・松くい虫（及びナラ枯れ）被害木の診断 ・被害木の伐倒、くん蒸処理
4	講義	8	・野生鳥獣被害の診断と防除	・野生鳥獣による被害と対策 ・二ホンジカ、イノシシ、サル、クマ、ヌートリア
5	実習	8	・二ホンジカ被害地調査（被害対策）	・林木被害調査 ・捕獲：足くくり罠 ・予防：ツリーシェルター、金網柵、ネット柵
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「狩猟読本」(大日本猟友会)、「冊子鳥獣被害診断と防除マニュアル」(島根県農林水産部)、関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60	20	10	10		
摘要						

学年	1	単位数	18	時間数	600	対象	林業
科目	専攻実習 I						
概要	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する。						
背景・目的	林業技術の向上と経営能力を養う。						
到達目標	基礎的技術を身につける。						

担当職員	専攻スタッフ等
進め方	教室内での演習、先進地等の視察、森林等における実習で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	48	・育苗 *5	普通苗・コンテナ苗、播種・挿し木、苗畑管理
2	実習	80	・育林 *2	地拵え、植栽、下刈り、除伐、枝打ち、間伐
3	実習	48	・測樹	・標準地調査、毎木調査
4	実習	40	・測量	・周囲測量（アナログ・デジタルコンパス）
5	実習	120	・林業機械 *3	・手工具、刈払機、チェーンソー、ミニバックホー
6	実習	160	・高性能林業機械 *7, 8, 9	・ハーベスタ、スイングヤード、フォワーダ
7	実習	24	・架線	・集材機、スイングヤード
8	実習	24	・木材利用	
9	実習	40	・森林資源活用	・きのご原木栽培、きのご菌床栽培
10	実習	16	・スマート林業 *6	・GIS、GPS、UAV

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			40	20	40	技能
摘要						

学年	2	単位数	14	時間数	478	対象	林業
科目	専攻実習Ⅱ						
概要	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する。						
背景・目的	林業技術の向上と経営能力を養う。						
到達目標	基礎的技術を身につける。						

担当職員	専攻スタッフ等
進め方	教室内での演習、先進地等の視察、森林等における実習で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	24	・育苗 *5	普通苗・コンテナ苗、播種・挿し木、苗畑管理
2	実習	86	・育林 *2	地拵え、植栽、下刈り、除伐、枝打ち、間伐
3	実習	16	・測樹	・標準地調査、毎木調査
4	実習	16	・測量	・周囲測量（アナログ・デジタルコンパス）
5	実習	96	・林業機械 *3	・手工具、刈払機、チェーンソー、ミニバックホー
6	実習	104	・高性能林業機械 *7, 8, 9	・ハーベスタ、スイングヤーダ、フォワーダ
7	実習	32	・架線	・集材機、スイングヤーダ
8	実習	32	・森林作業道	
9	実習	24	・労働安全衛生 *10、1	
10	実習	24	・森林保護	・病害虫伐倒駆除 ・庭園木の管理
11	実習	24	・スマート林業 *6	・GIS、GPS、UAV

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			40	20	40	技能
摘要						

学年	1	単位数	1	時間数	24	対象	林業
科目	先進農林業者等体験学習 I						
概要	農林大学校で学んだ知識、技術の成果を踏まえ、より実践的な技術を習得するとともに、実社会への適応力向上を図る。						
背景・目的	現場に即した実践的な知識や技術を習得するとともに、就職先選定に生かす。						
到達目標	実践的な技術を身につけるとともに、勤労意識を高める。						

担当職員	嘉儀圭一
進め方	原則、自宅または寮から通って体験実習を行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	20	・森林組合、民間事業者等での実習	・森林組合での体験実習 ・素材生産事業者等での体験実習
2	講義	4	・レポート作成	・レポート作成
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)						
評価基準	1. 学習終了 (%)	2. レポート (%)	3. 実習態度 (%)	4. 事業者評価 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60	20	20			
摘要						

学年	2	単位数	8	時間数	256	対象	林業
科目	先進農林業者等体験学習Ⅱ						
概要	農林大学校で学んだ知識、技術の成果を踏まえ、林業事業者での実務を経験する。 先進的な林業経営等を視察しその特徴を理解することにより、本県林業の振興につなげる。						
背景・目的	現場に即した実践的な知識や技術を経験・習得するとともに、就職先選定に活かす。 先進的・特徴的な林業経営に関する知識や技術を理解し、将来の地域林業をリードする資質を養う。						
到達目標	実践的な技術を身に付けるとともに、林業で働くイメージを明確にして就業意欲を高める。 先進的・特徴的な林業経営に関する知識や技術を理解し、今後の森林管理・整備等を進めるための視野を広げる。						

担当職員	嘉儀圭一
進め方	インターンシップ：原則、自宅または寮から通って就業体験を行う。 先進林業経営等視察：県外視察

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	【インターンシップ】 ・就業体験学習課題設定 ・就業マナー、心構え	・研修先事業者選定、目標、課題の設定 ・仕事をするうえでのマナーと心構え
2	実習	160	【インターンシップ】 ・森林組合、林業事業者等での就業体験	・選定した事業者での就業体験 ・日報の記録
3	講義	32	【インターンシップ】 ・就業体験の振り返り、まとめ	・礼状の作成 ・体験学習内容の取りまとめ ・報告書、プレゼン資料の作成
4	講義	4	【インターンシップ】 ・就業体験状況の発表	・発表会での体験状況報告
5	講義	8	《先進的な林業経営等の視察》 ・視察先の事前学習	・視察先の特徴等の事前把握、視察目的の明確化
6	実習	32	《先進的な林業経営等の視察》 ・視察研修	・先進的な林業経営等の視察
7	講義	16	《先進的な林業経営等の視察》 ・視察報告	・視察成果の取りまとめ、視察報告会
8				
9				
10				

テキスト (教材)						
評価基準	1. 学習終了 (%)	2. 報告会 (%)	3. 報告書 (%)	4. 事業者評価 (%)	5. 訪問職員評価 (%)	摘要
	60	10	15	10	5	
摘要						